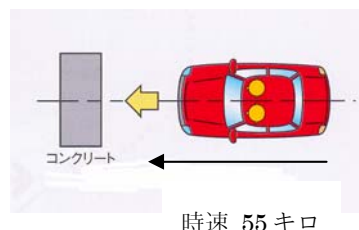


自動車アセスメント試験方法の概要

1. 衝突安全性能試験

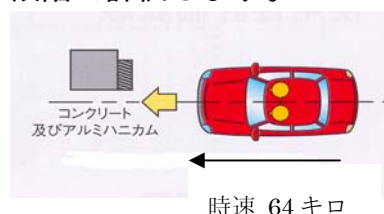
(1) フルラップ前面衝突試験

時速 55km でコンクリート製の障壁（バリア）に車両前部の全面を衝突させた時の乗員傷害を 5 段階で評価します。



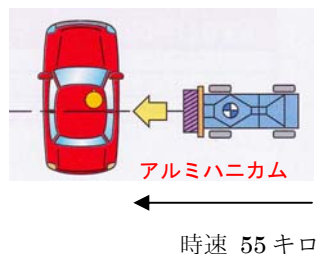
(2) オフセット前面衝突試験

時速 64km で衝撃吸収部分を取り付けた障壁（バリア）に車両前部の一部（運転席側 40%）を衝突させた時の乗員傷害を 5 段階で評価します。



(3) 側面衝突試験

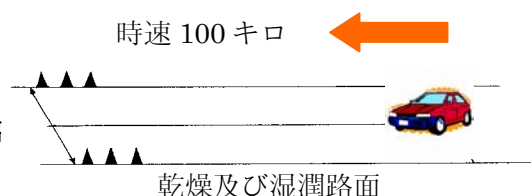
自動車の運転席側側面に、自動車に見立てた台車を時速 55km で衝突させた時の乗員傷害を 5 段階で評価します。



2. ブレーキ性能試験

時速 100km から急ブレーキをかけたときの停止距離を乾いた路面と濡れた路面で計測します。

3. 5m幅



3. 歩行者頭部保護性能試験

試験は、試験車両に歩行者の頭部が衝突する位置を想定して、試験エリアをⅠ～Ⅲに分け、そのエリアⅠ、Ⅱを6分割、エリアⅢを3分割、合計15に細分化して、各細分化エリアで最も傷害値が高いと思われる1点又は2点を選定し、歩行者の頭

部を模擬したインパクトを使用して、車両分類ごとの衝撃条件で衝撃を加えて得られた傷害値を細分化エリアの代表値とします。

こうして得られた、傷害値を評価関数（H I C650 を4点、H I C2000 を0点）を用いて得点化するとともに、細分化したエリアごとに平均化し総合得点平均を計算します。更に、総合得点平均を傷害値に換算してから、頭部に重大な傷害を受ける確率（A I S 4+）が約40%以上の車をレベル1とし、その確率が約10%以下の車をレベル5として、その間を4等分した5段階で区分し評価しました。